

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	未破裂脳動脈瘤発見率年次推移の研究
研究期間	当院病院長許可日 ～ 2028年12月31日
対象患者	脳ドック学会認定施設の内、本研究の参加施設で2000年1月1日～2021年12月31日までに脳ドックの実施した方と未破裂脳動脈瘤を新たに発見された方
研究機関の名称	別添のとおり
当院研究責任者	脳神経外科 井川 房夫
意義・目的	<p>日本のくも膜下出血の頻度は減少していたが、その原因として、未破裂脳動脈瘤の発生数が減少しているのか、未破裂脳動脈瘤の年間破裂率が減少しているのか、それらの割合は不明です。そこで我々は脳ドック学会協力研究として脳ドックの長期データから未破裂脳動脈瘤の発見率の年次推移を解析し、日本の未破裂脳動脈瘤の発見率が減少しているかどうかを検討することを目的とします。</p> <p>本研究により、未破裂脳動脈瘤の発生率、年間破裂率の年次推移を類推できるため、その原因を解明すれば、脳動脈瘤の発生と破裂のメカニズムの解明につながる研究となります。</p>
研究内容	<p>統計ソフト JMPproV16 を用いて下記の解析を行います。</p> <p>①脳ドックで発見された全未破裂脳動脈瘤症例を解析しその年次推移を統計学的に解析します。</p> <p>②脳ドックで発見された全未破裂脳動脈瘤症例を解析し、年齢、性別などサブ解析を行います。統計学的危険因子を単変量、多変量で解析します。</p> <p>③磁場強度別発見率の違い、施設間格差などを解析し、脳ドックの特徴を探ります。</p>
利用・提供する試料・情報の項目	年齢、性、既往症（高血圧、糖尿病、脳卒中、心臓病、多嚢胞性腎症、その他）、家族歴（くも膜下出血、他の脳卒中、未破裂脳動脈瘤）、MRI 磁場強度、MRA の撮影方法（シークエンス、スライス厚等）、未破裂脳動脈瘤の場所、大きさ、形 等
試料・情報の他機関への提供有無	<p>■あり 提供方法：安全なクラウド上に共有フォルダを作成し、個人情報を含まないパスワード付きエクセルファイルで提供します。パスワードは別メールで研究責任者に送付します。</p> <p>海外の機関への提供 <input type="checkbox"/>あり・<input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p><input type="checkbox"/>なし</p>
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として公表予定です。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院

研究責任者：脳神経外科 井川房夫
電話：0853 - 22 - 5111（代表）

事務担当：臨床研究・治験管理室
電話：0853-30-6590（直通）

研究組織

研究代表機関：島根県立中央病院

共同研究機関：

山口大学医学部
三重大学大学院
東近江総合医療センター
九州医療センター
京都大学大学院
東京大学大学院
広島大学

既存情報を提供する機関：

社会医療法人医仁会 中村記念病院
社会医療法人 北斗 北斗病院
横浜新都市脳神経外科病院、
一般財団法人富士脳障害研究所附属病院
福井県済生会病院
(一財)関西労働保健協会 千里LC健診センター
医療法人 泰庸会 新潟脳外科病院
公益財団法人唐澤記念会大阪脳神経外科病院
社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院
公益財団法人老年病研究所附属病院
医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院
学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院
秋田県立循環器・脳脊髄センター